

井上浩二議員



(一般質問)

- 1 公園遊具について
- 2 学校給食について
- 3 小松中央公園グラウンドゴルフ場の現状について

子どもたちに安全で

楽しい遊び場を！

問

コロナ禍の中で子どもを遊ばせる場所として、都市公園がたいへん貴重な存在となっている。市内の公園には長年使えなくなったままとなっている遊具もあるが、公園の施設や遊具を充実させ、子どもが伸び伸びと遊べる都市公園の整備が必要と考える。日頃、遊具の整備・点検をどのように行っているのか。また、経年劣化に対応するための修繕・更新をどのように考えているのか。

答

遊具の整備は、国土交通省の都市公園における遊具の安全確保に関する指針に基づき、職員などが目視・触診で施設の変形や異常の有無を確認し、塗装などを行う簡易な整備を月に1回以上実施している。点検は都市公園法施行規則で年1回行うこととなっており、本市でも専門業者への委託などにより定期点検を行っている。

また、点検の結果、利用し続けるため部分的な補修が必要と評価されたものについては、専門業者と効果的な手法を協議した上で市内業者などによる修繕を行うとともに、利用禁止と評価されたものについては、緊急的な利用禁止の措置を取っている。



使用禁止となっている遊具

更新は、西条市公園施設長寿命化計画に基づき、国の交付金を活用して行うものであるが、限られた財源の中で優先度を考慮した対応をする必要があり、全ての遊具を更新することは困難である。また、安全に利用するための基準に不適合な遊具は、廃止せざるをえないと考えている。今後は、公園の遊具のみで更新を

考えるのではなく、周辺施設の遊具も含めた集約による最適化を図り、持続可能なまちづくりの実現に努めたい。

今井廣一議員



(一般質問)

- 1 ホームヘルパーについて

若年層ホームヘルパーの

育成を！

問

ホームヘルパーは、決められた時間に、要介

護者などの自宅を訪問し、必要に応じてさまざまな介護サービスを提供している。在宅介護を支えるプロとして、これからの社会に欠かすことのできない存在であるが、本市においても、ホームヘルパーの高齢化が課題となっている。今後、若年層のホームヘルパーを増やすために、どのような支援を考えているのか。

答

本市におけるホームヘルパーの高齢化については、主な事業所への聞き取り結果から、50歳代から70歳代のホームヘルパーの割合は85・7パーセントであり、20歳代から40歳代の若年層の割合が少ない状況にあると承知している。一方で、ホームヘルパーは利用者の生活の一部に入り込むため、一定の年齢を重ねることにより得られる社会的スキルも重要であるとの声もあった。

国では、若年層のホームヘルパー育成に向け、令和3年度の介護報酬改定時に、ホームヘルパーの資格要件の一つである介護福祉士について、サービスの質の向上やキャリアアップを推進する観点から、勤続年数の長い介護福祉士の割合が高い事業所を評価する新たな区分を設ける。また、県では、事業者が介護事業所で補助的業務に従事している介護職員にホームヘルパーの資格取得のための介護員養成研修を受講させた場合、その費用の一部を助成する事業を実施している。このようなことから、本市では、ホームヘルパーの育成に当たり、県が実施している助成制度の活用を広く周知し、利用促進を図るとともに、国の施策に従い、介護職員のキャリアアップを推進し、長く介護に従事する人材を確保していきたいと考えている。

